

# 早期復旧を約束

## 離岸堤も来年五月までに

さきの台風16号で決壊した久枝の防潮堤を視察するため、亀岡建設大臣が、九月二十七日空路高知入りした。

大臣は午後五時すぎ、高松建設局長、県選出国會議員ら十五人とともに現地に着き、地元民、地元消防団員ら二百人が見守るなか、被災箇所を見て廻った。

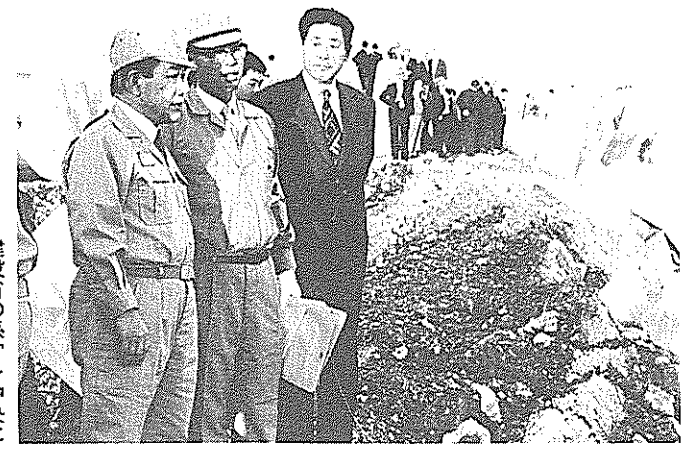
久枝防潮堤は、さきの台風14・15号で一部かん波、続く九月一日の台風16号で二百メートルにわたって決壊していたもの。

そのあと、建設省は台風シーズンとあって、蛇かごなどで応急の復旧工事をすましていた。

杉本市長、地元代表者らは、台風前から防潮堤の補強を要請、決壊したあとにも建設省、大蔵省、高松の建設局などに、防潮堤の復旧と離岸堤の早期着工を強く要請していた。

大臣は、現場の見取り図で、杉本市長、建設省の係官らの説明を受けながら見て廻り、「高知は台風が多いから、早く復旧しなければ」と話していた。

# 建設大臣、久枝防潮堤を視察



建設省の係官を中央に  
亀岡建設大臣（左）と  
杉本市長（久枝現場で）

# 災害復旧のその後

このあと、杉本市長、地元の橋本直治氏、堀川和夫市議が、市民を代表して「私たちは、この堤防が命の守りだ。一日も早く安心して生活ができるように復旧してほしい」と、二百人が署名した嘆願書を添えて要望した。

これを受けて大臣は「国を守る

# 稲生承水溝を改修

## 補正予算で七千万円

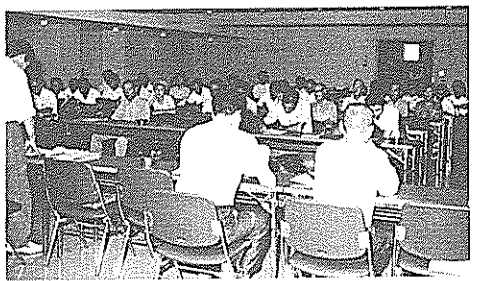
雨が降れば浸水する。稲生地区の防災事業として、市は九月市議会に稲生承水溝の改修七千万円を計上。来年三月末までに工事を完了することにした。

この承水溝は、昭和二十九年につくられたもので老朽がひどく、四十六年の台風23号では五〇センチの浸水、小久保部落が浸水して大きな被害をだしたことがある。

計画では、起点の宮の谷から終点の下田川まで、延長九一八メートルを全面改修。現在の承水溝の幅を二

# 県民ぐるみの結起集会を

## 空港拡張反対市民連合



今後の取り組みを話す市民連合

高知空港拡張反対市民連合（有沢実会長）は九月二十八日、市役所大会議室に役員ら五十人を集め今後の対策を話し合った。

高知空港の拡張問題は、九月二十六日、運輸省と県土地開発公社が用地取得に関する覚書きを交換したところから新しい局面をむかえた。そこで、農繁期などで低調だった反対市民運動に「カツ」を入れるため開いたもの。

まず、有沢会長が現在までの経過を報告。「覚書きの交換で重大な状態になった。地主の結束は勿

論、市民運動をさらに強めたい」とあいさつ。杉本市長も「空港拡張はダム建設のように、高い価格で補償すればすむものでない。また、周辺整備や騒音対策など部分的なものでもない。南国市を構造的に変革する具体策がない限り納得できない」と、知事にたたしたが、知事は一言も返事がなかった。成田空港は七年たったが飛行機は一台も飛べない。市民の団結の結果だ。市民が苦しみ、被害を受けようとしているとき、市長には法的な権限が何もない。しかし、行政の限界のぎりぎりまで力を尽し、市民とともに力を合わせて阻止したい」と激励。全員討議に入った。

まず、「足元をまずまとめるところが大切だ」と、勉強会を提唱。「状況分析をして、研究会、検討会を開くべきだ」として「各地区

# 親ぼくと福祉向上

★初の身障者大会開く

市身体障害者協議会（前岡繁政会長）主催の第一回身障者大会が十月一日中央公民館で開かれ、ことしの事業計画などを決めた。

この会は、市内で障害者手帳をもっている人が約千人いるがお互いの交流がないところから

親ぼくを深め、福祉行政の向上をはかるため開かれたもの。

このなかで、あまり知られていない身障者の会を広くPRする、各種制度の活用や相談、調査に取り組みことが決められた。前岡会長は「現在、福祉行政が大きくとりあげられているが、身障者の問題など経済的にも弱い立場の人が多い。生活の安定、よりよい生活ができるよう頑張りたい」と話している。

# 南国市史の編さん

## 古文書などありませんか

南国市は、昭和54年で満20才になります。

そこで、創立20周年を記念して「南国市史」の発行をすすめています。

市は、古い歴史と輝く伝統をもち、将来性もありますので、重みのある、意義の深い市史をつくりたいと思います。

古文書など、次のような資料がありましたら、ご連絡ください。

市民のみなさんのご協力で、すばらしいものを完成したいと思いますので、よろしくお願ひします。

- 史記 真来
  - 村写 由来
  - 旧地名 特長のある家屋
  - 伝説 由来
  - 古文書 伝説
  - 絵巻 由来
  - 古民話 風俗・伝統
  - その他
- 南国市史編さん係  
(市教育委員会社会教育課内)

「県下の公害闘争、原子力発電所宿毛湾開発などの反対運動と交流、全国の空港周辺住民とも手をつないでいくべきだ」と、高知市、野市町、赤岡町、吉川村などの近隣市町村、総評や民主団体にも働きかけられるべきだ、などの意見が、県民ぐるみの「結起集会」を開

くことが決められた。

このあと、高知市の坂本浦戸湾を守る会事務局長が「相撲をとるにはまわしが必要。まわしとは資金のことだ。そして、機関紙を発行するなど、市民同士の連帯を広めることだ。役員は請負でなく、市民の一人ひとりが核になることが大切。市民運動の発展が勝利への原動力である」と激励。

「広島空港では、市民の力でジェット機を飛ばしていない。原子力船、むつもそうだ。むつ市には権限はないが阻止した。政治を動かすのは市民だ。市民個々ではなく市民運動だ」などが話され、「これからが本番、足元をかため、外部にも働きかけて強力な市民運動を盛り上げる」と有沢会長が結び閉会した。